



あおもり創生☆News No.8

◆topics◆

- あおもりで暮らす～自分らしい働き方～
 - 令和4年度 第1回 産官学情報交換会について
 - 自分の将来を考え、青森県を理解する機会になれば・・・
 - <実践> 青森県の企業について知る！ 青森県合同企業説明会
-

◆あおもりで暮らす～自分らしい働き方～◆

就職ー新たな世界へと羽ばたいていく若者たち。

その中には夢実現の舞台を県外の地に求め、旅立っていく人も。

また途中、転職する道を選ぶことになっても、地元へは戻らず、そのまま県外で仕事を探すケースも多いのではないのでしょうか。

むつ市の、川のほとりで喫茶店を営まれている柳谷多恵子（やなぎやたえこ）さんは、関東の企業に勤務する傍ら、週末、本業のお休みの日に喫茶店を開いています。





「ここに住むのもいいな。」

むつ市に帰省する度、こんな何もないところに戻ってくることはないと考えていた柳谷さんが、ふとそんなふうに思ったのは 2014 年の秋。ご実家の前を流れる川の景色を見た時のことでした。

その後、むつ市で一人暮らしをしている高齢の叔母さまから「近くで暮らしてもらえないか」と相談を受け、青森県からの在宅勤務を会社に打診。会社側もそれを承認し、翌年青森県に Uターンしました。

「あの時感じた川の景色の記憶がなければ、叔母の相談に応えることはなかったでしょう。」
青森県に戻り、子供の頃の夢だった『喫茶店を開くこと』を前提に設計した家を建てました。
定年退職後に開くつもりだった喫茶店を、退職まで待たずとも営業できないかと考えるようになり、本業と両立できる規模で始めてみることに。

平日は、関東に居た頃と変わらない業務内容を遠隔でこなす柳谷さん。仕事由来のストレスはなくなるものの、目の前を流れる川の景色が日々の疲れを癒してくれるのだそう。



丁寧に淹れられたコーヒーと、店の前を流れる川。

穏やかな空間で景色を眺めていると、日常のせわしなさから離れ、柳谷さんが自分らしくいられる理由がわかります。

大きな決断だった青森県へのUターン。会社を辞めるという選択をせず、更には夢だった喫茶店経営も実現。

そんな柳谷さんでも、学生の頃は希望する仕事も特になかったのだとか。様々な仕事を経験するなかで得意・不得意に気付き、やりたいことが見えてきたといいます。

「これまで経験したどの仕事も、何らかの形で今に役立っているなど感じる。とにもかくにも失敗を恐れず、何でもやってみることをお勧めします。それから、自分で考えて、自分で決める。これが大切だと常々思っています。」

関東での生活を経て、歩くことが苦にならず「青森の生活に車は必需品」という固定観念がなくなったという柳谷さん。

働き方についても固定観念にとらわれがちな私たちですが、柳谷さんのように自由な発想で、「自分らしく働く」ことができる社会になっていけたら — と願います。

◆令和4年度第1回産官学情報交換会について◆

青森県内の経済団体（以下 産）・自治体（以下 官）・高等教育機関（以下 学）等で、学生の県内定着に取り組む「産官学情報交換会」。

今年度初回の会議（7月26日開催）では、各大学等における取組をはじめ、県企画政策部より県内大学で実施しているワークショップや若者定着奨学金返還支援制度について、また同商工労働部より官民連携による県内就職促進プロモーションや企業・大学連携型インターンシップについての説明が。

青森県商工会連合会からは、会員に対して早期求人票公開の呼びかけを行っていく旨の報告がありました。

―意見交換の内容―

- ・ 高校生の起業家教育カリキュラムに、大学はもちろん産官学一丸となって協力し、育てていくことが必要。（学）
- ・ 商工会連合会でも高校生の採用は行っている。中小企業になかなか人が来てくれないので、高校生を大事に育てたいという思いはある。（産）
- ・ 県のオンラインを活用した中小企業採用活動デジタル化推進の取組は素晴らしい。（学）
- ・ インターンシップの役割が高まっている。オンラインでの取組なので、多くの方に参加していただけるよう更なる周知・広報に努めたい。（官）
- ・ 経団連等からの要望により、2025 年卒の就活からインターンシップに参加した学生の情報を採用選考に利用することが認められる。インターンシップと採用を繋げるといった動きが、県内企業に見られるか？（学）
- ・ インターンシップは5日間以上でなければならない。中小企業がどう考えるかは、現時点では不透明。（官）



◆自分の将来を考え、青森県を理解する機会になれば・・・◆

この先どこでどんな風に生きていくことが自分らしくいられて、心地よいことなのか。そのための進路として、何を選択すべきか・・・

悩んでもいい、迷ってもいい。ただ、せつかくなら 青森県の魅力をしっかりと理解した上で自分と向き合い、将来の道を選んで欲しい。

—こう呼びかけているのは『YES! AOMORI キミたちに伝えたい青森』（県企画政策部）という冊子。



1- 『YES! AOMORI キミたちに伝えたい青森』 Web ページ

- ・ 地方でも都会と同じ仕事ができる時代に
- ・ 青森の魅力、再発見
- ・ 暮らしやすさ、働きやすさ について紹介！

さらに、将来やりたいこと、どんな暮らしをしたいかなど、将来をイメージしながら「私のライフプラン」を書き出してみることができます。高校生用の冊子ではあるものの、学生にも参考にしてもらえるのでは。

ガイドブックでは、新卒募集企業リストや、就活のスケジュールと進め方、恥をかかない就活マナー、先輩社員の声など企業の魅力を伝えるコラムを掲載。

大学を卒業したら青森で働きたいーそんな思いをサポートしていますので、是非ご活用を！

※この App は、iPhone の App Store でのみご利用いただけます。



4- 『シューカツアオモリ』ダウンロード For iPhone

◆＜実践＞青森県の企業について知る！ 青森県合同企業説明会



8月と言えば就活シーズン第2段、県外に居る学生の帰省時期とも重なります。

この機会を捉え、8月19日、青森市内で青森県合同企業説明会が開催されました。

学生等の県内就職を促進し県内企業の人財確保を支援するため、県（労政・能力開発課）が平成26年度にこの事業を開始。

今年度は出展企業数が51社（昨年度41社）。そのうち7社は会場からオンライン配信を行い、企業説明、学生からの質問に応じました。

県庁ブースでは今年 6 月から始まった『青森県若者定着奨学金返還支援制度』の紹介・相談も。



5- 企業説明会の前に行われる「面接対策講座」準備のようす

県外の大学に進学した A 君（4 年）。2 年、3 年次はコロナ禍で完全オンライン授業に。

「弘前市の実家に戻っているうちに県内で仕事をしたいと思うようになった。実家に届いた資料の中から『シューカツアオモリ』（前述）を見つけ、今日の説明会のことを知った。」

同じく 4 年の B さん。「県の奨学金返還支援制度に関心があった。企業の経営理念と自分の相性を考えて就職先を決める」と言う。

出展企業の C 氏。「まずは私たちの業界を知ってほしい。ノルマがあるのでは？とのイメージを持つ学生の不安払拭から始めたい。」

県の担当者。「青森県にも魅力ある企業があることを知ってほしい。首都圏に劣らない企業もあり、幅広い業種を知る機会にもなります。」

会場では、マイナビのスタッフによる面接対策講座や、就活の悩みを相談できるカウンセリングも実施。

青森県の企業を知りたい、自分を掘り下げてみたいという学生の皆さん。来年の説明会に足を運んでみてはいかがでしょうか。



6- 説明会開始を待つ学生たち

◆編集後記◆

今回のニュースレター、いかがでしたでしょうか。

柳谷多恵子さんの、あおもりで暮らす～自分らしい働き方～。ご実家の前を流れる川の景色に、ふと「ここに住むのもいいな。」そう述懐されます。

現在もむつ市内に居ながらにして、関東にある会社の仕事をこなし、週末は子供の頃からの夢だった喫茶店の経営。固定観念にとらわれず、自由な発想で、「自分らしく働く」一素晴らしいです。

ところで、学生に県内企業のことがあまり知られていないのでは、という話を耳にします。

学生にとって職業の選択肢が広いことは確かに大事なことです。意外に見落としがち(?)と思われる県内企業を知るための事業や、青森県の魅力を紹介する企画がいろいろあると思います。

その一つとして今回、県庁からお話を伺うだけでなく、実際に青森県合同企業説明会にも行ってきましたので、その内容をお伝えしました。

各大学等の就職担当の方、就活に向かう学生の皆さんにとって、参考にしていただける内容になっていれば嬉しいです。

【編集責任者 弘前大学 社会連携課 須田 誠一】